



妙正寺川が環七通りと交差する新昭栄橋付近から三谷橋にかけて、河川整備工事が実施されています。

野方図書館からも工事の風景を見ることができ、重機が作業する様子を興味深げに眺める利用者の方が多いです。

妙正寺川は、杉並区妙正寺公園の妙正寺池を水源とする流れが、白鷺1丁目の下鷺橋下の湧水、江古田川と合流し、杉並区・中野区・新宿区を流れる荒川水系の一級河川です。延長9・7キロメートル、流域面積21・4平方キロメートル。大きく蛇行した流れは下落合駅付近で高田馬場分水路に流入し、豊島区の高戸橋で神田川合流しています。



妙正寺川の水源、杉並区の妙正寺池。

◆集中豪雨に対応する平成から令和の工事

平成17年9月4日夕方から5日未明に発生した集中豪雨は杉並区下井草の観測所では1時間あたり112ミリ、総雨量263ミリを記録しました。妙正寺川・善福寺川が溢れ、新宿区、中野区、杉並区で大規模な浸水被害が発生しました。野方3丁目をはじめ護岸の破損も発生したこの時の集中豪雨では野方図書館も浸水被害を受けています。

この被害を受け、妙正寺川・善福寺川両河川で浸水2千戸以上の被害が発生した地域に対して、概ね5年で緊急的に河川整備を行い、災害の再発防止を図る河川激甚災害対策特別緊急事業が実施されました。また、近年の集中豪雨などの状況に対処するため、都は、平成26年度に「東京都豪雨対策基本方針」を改定し、河川の整備水準を時間50ミリ降雨から時間最大75ミリ降雨に引き上げました。これは、50ミリ降雨は河川整備で対応し、これを超える降雨に対しては、調節池等に対応することを基本としています。現在野方図書館付近で行われている河川整備工事もこの事業に連なるものとなっています。

河川整備は、昭和の工事の際に比べてビルや住宅が河川沿いにさらに密集しているうえに、100メートルおきにかかっている橋梁の架け替えを伴いながらの工事となることから、工期の長期化が懸念されました。そこで調節池を適所に設置して、河川

水害により周囲に大きな被害が出たことも度々あり、昭和、そして平成・令和と河川整備が行われてきました。工事の記録からは、昭和以降中野の街の様子が大きく変化したことが感じられます。

◆生活を支えた昭和の工事

豪雨のたびに氾濫する妙正寺川の整備は、はじめに昭和7年から14年に、下落合の神田川との合流地点から上高田の御霊橋にかけて行われました。コンクリート製の護岸を築造し、その後河道部の掘削を行い、人力で行われたと記録されています。

当時の記録『神田上水並同支流妙正寺川改修工事概要』には、改修前の妙正寺川について「本川は一般に紆余曲折に甚だしく幅員狭小」と記されています。また河岸は「概ね自然の儘に放任せられ、河岸地には草木発生し土砂河床に堆積し荒廃甚しく」「荒蕪地は住宅地と化し従て河川敷は漸次埋立てられその幅員を一層狭められ甚しく通水を阻止せらる」とあり、一度豪雨が起きれば

沿川一帯の住宅が浸水被害を受けてしまう危険な状態であったと記されています。

下流部で整備が進められた一方、上流部の大規模な整備は昭和30年代を待つこととなります。きっかけは台風による被害でした。

昭和33年9月の台風22号（狩野川台風）では、妙正寺川、桃園川、神田川などが氾濫し、床上床下合わせて六千軒以上の浸水、家屋の流失や全半壊、護岸や道路の破損など大きな被害を出しました。

この台風の以前、昭和30年度から実施された土木施設整備4か年計画では、道路や排水施設の整備が進められていました。昭和28年時点で区内にあった木製の橋梁44基が、昭和35年には4基にまで数を減らし、鋼製や石積みの橋に置き換えられました。しかし道路の舗装は簡易的なものにとどまり、河川の整備はあまり進みませんでした。



台風の被害を受けて、昭和34年度からの第二次土木設備整備では道路の舗装や河川改修の100パーセント達成が目標に据えられ、重点的に進められることになり、妙正寺川上流部も護岸が整備されたのです。



昭和28年、河川工事前の妙正寺川  
『中野区の30年』中野区／編 1957年 より引用

の水を貯留、下流に洪水の影響がないように担保して、その上流に向けて工事を進めていくことで、同一河川の複数工区で事業を進められるようになり、工期の短縮が図られました。また既設護岸はブロック積みでしたが、新設の護岸には場所打擁壁または、本体が鋼管またはH形鋼の自立構造で、その前面をコンクリートで被覆する構造が採用されています。

鋼管の埋設には鋼管自身を回転させ圧入する工法が採用されています。野方図書館を訪れた方の中にも、大きな鋼管が回転しながら地中に埋められていく様子をご覧になった方も多いのではないのでしょうか。鋼管が柱列状に打設され、その鋼管上に仮設構台が設置、延伸びながらさらに鋼管をその先に設置していくという作業が繰り返され、鋼管杭打設完了後に既存の護岸の撤去や河川の掘削などを行ったうえでコンクリートパネル護岸が構築されます。

設置された仮設構台は、現在工事が進む東京都立中野工業高校の校舎建て替えのため、野方の入り組んだ細道を入れることのできない重機の通り道として利用される予定です。中野工業高校の校舎建て替え工事が完了後、河川の掘削や護岸整備を行います。三谷橋付近まで延伸びしてきた仮設構台を撤去、新昭栄橋方向に護岸整備を進めながら戻ってきます。



現在の工事現場の様子  
野方図書館屋上より撮影

【参考文献】

- 『中野区民生活史』第3巻（1985年 中野区 所蔵：中央 野方 南台 鷺宮 江古田 上高田 中野東）
- 『図説江戸・東京の川と水辺の事典』（2003年 柏書房 所蔵：中央 野方）
- 『中野区の30年』（1957年 中野区 所蔵：中央 南台 鷺宮 江古田 上高田 中野東）
- 『神田上水並同支流妙正寺川改修工事概要』（東京府 1940年 所蔵：東京都立図書館）
- 『土木施工』59巻9号（オフィススペース 2018年 所蔵：東京都立図書館）

【参考WEBサイト】

「東京都建設局ホームページ」<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/>  
4月18日現在

※この記事は野方図書館が担当しました。

※本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。